

平成23年度事業計画書

はじめに

1. ゴルフ業界の現状

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の状況は、下表の通り平成17年度以降全国ゴルフ場利用者数は増加に転じ、この5年間の利用者の増加人数は延べ6,335千人、増加率7.4%であり漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめたかの様に思われた。

然しながら、長期的展望は少子高齢化の加速や人口減から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいとの見方が一般的である。平成23年2月18日開催「第45回ジャパンゴルフフェア2011」におけるゴルフ市場活性化委員会(GMAC)のセミナーでは、平成22年度ゴルフ場利用者数(速報ベース)は89,509千人、前年度比2,133千人(2.3%)減少と、再び陰りが見え始めたと報告しており、業界諸団体の市場活性化に向けた活動にも拘らず、残念な結果となっている。

この様な状況下、当業界においては一層の新規ゴルファーの育成によるゴルファーの底辺拡大、需要創出が喫緊の課題であり、業界団体は連携を強化し市場活性化に向けた活動を、展開すべきであると思料される。当協会はアマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【最近のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり 利用者数(人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481

(注) 出所: 社団法人日本ゴルフ場事業協会調

2. 事業目的と事業の種類

(1) 事業目的

当協会は昭和37年に創立され本年49年目を迎えたが、今後も国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等を通じて豊かな国民生活の実現に寄与したいと考えている。わが国のゴルフ人口は約1,000万人と言われ、ゴルフはまさに国民的スポーツとして、充実した余暇活動の一助として男女を問わずジュニアから高齢者に至るまで幅広く愛されている。今後ますます高齢化社会が進展していく中において「余暇活動の充実」「健康の保持増進」は重要なテーマと思われるが、ゴルフは格好の「生涯スポーツ」として支持されている。

当協会はゴルフの普及振興のために、公益目的事業として

- ①国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーによるゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツのゴ

ルフの普及振興を図る事業

- ②国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

また、収益事業等として

- ①アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる公平な統一ハンディキャップの普及振興事業、及びその前提となるコースレート査定事業

- ②ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対し、その育成を支援する観点から助成する事業

を基本理念として事業活動を推進する。

(2)公益社団法人の認定

- ①現在我が国では、公益法人制度改革が進められているが、当協会は平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受けた。当協会は昭和37年創立以来、事業目的は前記(1)事業目的の通りであるが、今後も公益社団法人として公益目的事業を通じて、民による公益への積極的な参画により、社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

(注)1. 法人名称変更:平成22年4月1日付

(新)公益社団法人 日本パブリックゴルフ協会

(旧)社団法人 日本パブリックゴルフ場事業協会

- ②公益社団法人としての「今後の事業活動基本方針の策定」

平成22年11月11日開催平成22年度第4回理事会において、公益社団法人認定に関連して当協会の今後の事業活動の基本方針の策定が必要との判断から、会長の諮問機関である「特命プロジェクト委員会」が発足した。

特命プロジェクト委員会はその後数回開催され答申を取り纏め、昨年12月27日に会長に答申を提出した。平成23年度は、答申に沿った具体的諸施策の実現に向けた、種々の提言、施策が実行に移される。

(3)事業の種類

- ①公益目的事業(定款第4条)

- 1)ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- 2)ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- 3)ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- 4)ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

- ②収益事業等(定款第5条)

- 1)公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- 2)ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

3.事業体系

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

	Ⅱ.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選):(1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝):(1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本地区月例杯 :みんなでうきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
	7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】 ハンディキャップ普及振興事業	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

(注)PGS 東日本プロ・アマチャレンジ:平成23年度は開催見送り。

4.会議開催予定

(1)通常社員総会

平成23年度通常社員総会は、平成23年6月13日八重洲富士屋ホテルにおいて開催予定で、下記議案を審議する。

第1号議案 平成22年度事業報告(案)承認の件

第2号議案 平成22年度貸借対照表(案)、正味財産増減計算書(案)他承認の件

第3号議案 今後の事業活動基本方針(案)承認の件

第4号議案 「同一経営母体正会員」の議決権の運用取扱(案)承認の件

(2)理事会

	開催予定日	開催場所
第1回	平成23年 6月13日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第2回	平成23年 9月 1日	イーストウッドカントリー倶楽部(栃木県)
第3回	平成23年11月10日	メルパルク名古屋(愛知県)
第4回	平成24年 3月15日	下館ゴルフ倶楽部(茨城県)

(3)合同委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 6月13日	八重洲富士屋ホテル(東京都)
第2回	平成23年 9月 1日	イーストウッドカントリー倶楽部(栃木県)
第3回	平成23年11月10日	メルパルク名古屋(愛知県)
第4回	平成24年 3月15日	下館ゴルフ倶楽部(茨城県)

(4)予算編成正副委員長会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年 2月15日	未定(西日本地区)

(5)財務委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成24年 2月25日	協会事務局

(6)事業・競技・ハンディキャップ合同委員会

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 8月26日(予定)	未定

(7)スポンサー会議

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年10月14日	未定

5.会員・組織整備

(1)会員(平成23年3月末日現在)

- ①正会員 :89会員
- ②賛助会員 : 6会員

【会員数の推移】

単位:団体

年度	正会員			賛助会員		
	入会	退会	会員数	入会	退会	会員数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4
平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6
平成22年度	2	3	89	0	0	6

(2)組織

- ①公益社団法人認定を機に、新定款を踏まえ事業執行体制の見直し、また、事務局体制の見直しを図りリスク管理・内部統制・コンプライアンス体制等、公益社団法人に相応しい組織・体制の構築を実現する。
- ②広報委員会の新設
特命プロジェクト委員会の答申に基づき、当協会の広報、PR 活動の充実を期すため「広報委員会」を新たに設置する。

6.創立50周年記念事業

当協会は、来年度創立50周年を迎える。平成21年度第4回理事会(平成22年3月18日開催)において、記念事業として「協会50年史」の編纂を決定し、特定委員会「年始制作委員会」を設置し平成22年度より本格始動を開始した。制作は順調に進んでおり、本年春には初稿が完成の見込みで、平成23年度中の完成を目指したい。

平成23年度事業計画

【 公益目的事業 1 ゴルフ競技会開催事業 】

■ゴルフ競技会開催事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、全国でアマチュアゴルファーを対象としたゴルフ競技会を開催する。競技会は下表の通りであるが、1.スクラッチ競技と、2.アンダーハンディ競技があり、平成22年度の総参加者数は3万8千人であった。参加資格はアマチュアゴルファー、ゴルフ技量は自己申告制で、言わばアマチュアゴルファーであれば、誰でも日頃の研鑽の腕試しの場として参加できる門戸の開かれた競技会である。競技会開催案内は当協会独自の広報活動(ポスター、パンフレット、ホームページ)に加えて、マスコミ報道により一般に公開している。

★主催競技会

競技会(略称)	平成23年度参加者数計画(名)
I.スクラッチ競技	
1.第45回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	7,467
2.第11回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	855
3.第17回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,491
4.第17回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	360
5.第 8回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	946
6.第 5回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドアマ)	6,130
小 計	17,249
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯	7,120
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	1,350
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会	1,040
4.PGS西日本月例杯	9,930
5.PGS中部日本月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ	454
6.PGS東日本クラブ対抗戦	392
小 計	20,286
合 計	37,535

(注)PGS 東日本プロ・アマチャレンジ :平成23年度は休止。

■平成23年度競技の改善点

1. 2日間競技の初日カット廃止

平成23年度競技より、下記選手権競技の地区決勝、並びに全日本の2日間競技はすべて初日カットを廃止し、36ホールストロークプレーとする。

①パブリック選手権 :地区決勝、全日本

②パブリックミッドアマ選手権(男女両部門) :地区決勝、全日本

③シニア・女子シニア・ミッドシニアパブリック選手権 :地区決勝、全日本

2. 「中部日本女子パ選」開催方法の変更

従来、予選を複数会場にて開催、決勝進出者を決定し地区決勝を開催していたが、平成23年度より、中部日本地区女子パブリック選手権競技を、1日目に予選、2日目(カットオフ後)に地区決勝を同一会場にて連日開催する方法に変更する。

3. シニア3競技(シニア、女子シニア、ミッドシニア)開催方法の変更
平成23年度よりシニア、女子シニア、ミッドシニアの3競技の地区決勝・全日本を同一会場、同一日程で開催する方法に変更する。開催方法変更に伴い、女子シニア、ミッドシニアの地区決勝を18ホールストロークプレーから36ホールストロークプレーに変更する。
4. シニア3選手権地区決勝・全日本開催方法変更に伴う競技参加資格の変更
従来、男子シニアとミッドシニアは別競技であり、65歳以上の男子は両競技にエントリー出来たが、シニア3選手権地区決勝・全日本の競技方法変更に伴い、男子シニアとミッドシニア両競技のダブルエントリーは不可とする。
5. 北海道・青森地区女子パ選、シニア選手権の開催中止
北海道・青森地区選手権競技は、女子パブリック選手権並びに、シニア選手権の開催を中止する。従って、同地区の開催競技は男子パブリック選手権、並びに男子ミッドアマ選手権のみを開催する。
6. PGSスポンサー杯競技「キャロウェイ杯」の新設
平成23年度競技より、キャロウェイゴルフ株式会社(当協会賛助会員)の協賛により、PGSスポンサー杯 キャロウェイ杯(年10回)を新設する。なお、予選通過者はグランドマンズリーへの参加資格が与えられる。
7. PGSドリーム・エイジ大会の競技参加料引き下げ、並びに歩数ハンディキャップの上限設定
PGSドリーム・エイジゴルフ大会の競技参加料を3,500円から2,500円に引き下げる。また、歩数ハンディキャップに開催コースのプレースタイルに応じて上限を設ける。
8. PGSアンダーハンディ競技予選・地区決勝の上限ハンディキャップの統一
ローハンディキャップ者に対して競技参加機会の一層の開放、及び従来予選・地区決勝間の上限ハンディキャップを地区毎に統一する。
(1)東日本地区:50.0 (2)中部日本地区:50.0 (3)西日本地区:36.0

【予選からの決勝進出率(予選通過率)】

地区	PGSダンロップ杯決勝	PGSプリヂストン杯決勝	PGSグランドマンズリー
東日本地区	50%及びベスグロ者	50%及びベスグロ者	30%及びベスグロ者
中部日本地区	70%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者	70%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者	60%(北陸地区は80%) 及びベスグロ者
西日本地区	50%及びベスグロ者	60%及びベスグロ者	30%及びベスグロ者

(9)他団体競技のシード権追加

(財)日本ゴルフ協会、関東ゴルフ連盟他8連盟等に対してシード権の追加申請をしたが、現在未回答。

【平成23年度他団体主催競技へのシード権一覧】

◆パブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
		中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る
		中部ゴルフ連盟	翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	中部日本地区の出場者に限る
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	北海道アマチュアゴルフ選手権予選	2~10位	当該地区居住者

	東北ゴルフ連盟	翌年度	北海道オープンゴルフ選手権予選	1～10位	当該地区居住者	
		翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
				ノン倶楽部メンバー		
		上位2名				
	翌年度	東北アマチュアゴルフ選手権青森県予選	ノン倶楽部メンバー	当該地区居住者		
			上位3～10位			
	北海道日刊スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会	上位2名	当該地区居住者	
	東日本ABC	関東ゴルフ連盟	翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権ブロック大会	1位	当該地区居住者
			翌年度	関東アマチュアゴルフ選手権予選	2位～10位	当該地区居住者
		日刊スポーツ新聞社	当年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権関東決勝	1～2位	男子のみ
中部日本	中部ゴルフ連盟	当年度	中部オープンゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		当年度	中部オープンゴルフ選手権予選	2位～30位	当該地区居住者	
		翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	中部アマチュアゴルフ選手権予選	2～30位	当該地区居住者	
西日本 関西	関西ゴルフ連盟	翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	関西アマチュアゴルフ選手権予選	2～10位	当該地区居住者	
	サンケイスポーツ	当年度	近畿オープンゴルフ選手権	1位	当該地区居住者	
西日本 中国	中国ゴルフ連盟	翌年度	中国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
西日本 四国	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	四国アマチュアゴルフ選手権予選	2～3位	当該地区居住者	
西日本 九州	九州ゴルフ連盟	翌年度	九州アマチュア選手権決勝	1位	当該地区居住者	
		翌年度	九州アマチュア選手権予選	2～5位	当該地区居住者	

◆女子パブリック選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本女子アマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	中部日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子アマチュアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国女子アマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

◆パブリックミッドアマチュア選手権

競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドアマチュアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場合、資格の繰り下げは行わない
地区決勝	北海道・青森	北海道ゴルフ連盟	翌年度	北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権	1位	当該地区居住者
		東北ゴルフ連盟	当年度	東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
					ノン倶楽部メンバー	

		北海道日刊 スポーツ新聞社	翌年度	日刊アマ全日本シングルプレーヤーズ'ゴ ルフ選手権北海道大会	上位2名 上位2名	当該地区居住者
◆シニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場 合、資格の繰り下げは行 わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
			翌年度	中部シニアゴルフ選手権予選	2～20位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国シニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者
◆女子シニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	翌年度	日本女子シニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場 合、資格の繰り下げは行 わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部女子シニアゴルフ選手権	1～20位	当該地区居住者
◆ミッドシニアパブリック選手権						
競技会	地区	主催団体	年度	競技会名	対象	備考
全日本	全日本	日本ゴルフ協会	当年度	日本ミッドシニアゴルフ選手権	上位2名	上位2名が有資格者の場 合、資格の繰り下げは行 わない
地区決勝	中部 日本	中部ゴルフ連盟	翌年度	中部ミッドシニアゴルフ選手権	1～10位	当該地区居住者
	西日本	四国ゴルフ連盟	翌年度	四国ミッドシニアゴルフ選手権決勝	1位	当該地区居住者

■競技会開催要項

1. 参加資格

競 技	参加資格	年齢資格	
I.スクラッチ競技			
1.パ選	1.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規 定されたアマチュアゴルファー。 2.高等学校までに在学の生徒は、 学校長等責任者の参加許可証 の提出が必要。 3.誰でも参加できるが、ハンディキ ャップ20.0程度以上が望ましい	なし。	
2.女子パ選			
3.シニア			男子55歳以上。
4.女子シニア			女子50歳以上。
5.ミッドシニア			男子65歳以上。
6.ミッドアマ			男子、女子共30歳以上。
II.アンダーハンディ競技			
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS 会員で JGA(PGS)ハンディキ ャップの取得者。	なし。	
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー			
3.PGS ドリーム・エイジゴルフ大会			なし。
4.PGS 西日本月例杯	PGS 会員で JGA(PGS)ハンディキ	なし。	

	ヤップの取得者。	
5.PGS 中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)	PGS 会員で JGA (PGS)ハンディキヤップ取得者。 JGA ハンディキヤップ取得を目指すアマチュアゴルファー。	
6.PGS 東日本クラブ対抗戦	PGS 会員で JGA (PGS)ハンディキヤップの取得者。	
7.PGS 東日本プロ・アマチャレンジ	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯の規定回数以上の参加者で、抽選により選出された方。	

- (注) 1. PGS 会員:JGA ハンディキヤップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる
2. PGS 東日本プロ・アマチャレンジ :平成23年度は休止

■競技

I. スクラッチ競技

1. 平成23年度第45回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

パブリック選手権はアマチュアゴルファーであれば誰でも参加できる開かれた檜舞台であり、またトップアマへの登竜門でもある。参加者数は、平成14年度から平成18年度の間は毎年1万名を超えるビッグ大会に成長したが、平成22年は残念ながら前年度に引き続き、1万名の大台割れ8,801名(内男子7,822名、女子979名)となった。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本アマチュアゴルフ選手権競技 平成23年7月5日(火)～9日(土)利府ゴルフ倶楽部(宮城県)の出場資格が付与される。

なお、公益社団法人として一層アマチュアゴルファーに対してプレー機会を提供し、開かれた競技会を開催することを目的として、平成23年度全日本パブリック選手権を当協会としては初めてメンバー制ゴルフ場(グランドオークゴルフクラブ・兵庫県)にて開催する。

◆競技日程

1. 予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合 計
予選数	39	15	38	5	97

(1) 18 ホールストロークプレー。

2. 地区決勝

地 区	開催コース	開催日
1. 東日本 A	イーストウッドカントリー倶楽部	5/19(木)-20(金)
2. 東日本 B	榛名の森カントリークラブ	5/18(水)-19(木)
3. 東日本 C	千葉よみうりカントリークラブ	5/ 7(土)- 8(日)
4. 中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	5/18(水)-19(木)
5. 西日本 関西	ダンロップゴルフコース	5/17(火)-18(水)
6. 西日本 中国	奥津ゴルフ倶楽部	5/18(水)-19(木)
7. 西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/18(水)-19(木)
8. 西日本 九州	セントレジャーゴルフクラブ鞍手	5/17(火)-18(水)
9. 北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/29(月)-30(火)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	グランドオークゴルフクラブ	6/8(水)-9(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

2. 平成23年度第11回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度は第11回大会となるがますますの盛況を期したい。第4回大会までは全日本男・女パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の名称で男子部門、女子部門を同日・同会場で開催していたが、参加者数の増大を機に平成17年度第5回大会から女子部門を独立させ、競技名称も全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技に改称し、単独競技となって6回目を迎える。

全日本上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催 日本女子アマチュアゴルフ選手権競技 平成23年6月21日(火)～25日(土)大洗ゴルフ倶楽部(茨城県)のシード権が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	24	1	26	—	51

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	那須野ヶ原カントリークラブ	5/ 8(日)
2. 中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	5/12(木)
3. 西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	5/13(金)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名、及びシード選手。

(2) 18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	ベアズパウジャパンカントリークラブ	6/1(水)-2(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

3. 平成23年度第5回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

近年のジュニアゴルファーの台頭と共に、パブリック選手権はジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本ミッドアマ選手権を創設した。以降ミッド層に好評で支持を得ており、機も熟したので平成19年度より全日本選手権とし、本年度は第5回大会を迎えた。

参加者数は、平成19年度5,074名、平成20年度5,758名、平成21年度5,767名、平成22年度5,976名と順調に伸長を見ている。また、公益社団法人として一層アマチュアゴルファーに対してプレー機会を提供し、開かれた競技会を開催することを目的として、平成23年度東日本B地区決勝を当協会としては初めてメンバー制ゴルフ場(東京よみうりカントリークラブ・東京都)にて開催する。

全日本男女上位者各2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドアマチュアゴルフ選手権競技平成23年11月16日(水)～18日(金)鬼ノ城ゴルフ倶楽部(岡山県)、日本女子ミッドアマチュ

アゴルフ選手権競技 平成23年11月17日(木)～18日(金)四日市カンツリー倶楽部(三重県)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
男子の部	34	11	38	5	88
女子の部	22	7	21	—	50

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本A	下館ゴルフ倶楽部	8/ 2(火)- 3(水)
2. 東日本B	東京よみうりカントリークラブ	7/25(月)-26(火)
3. 中部日本	森林公園ゴルフ場	7/28(木)-29(金)
4. 西日本	武庫ノ台ゴルフコース	7/21(木)-22(金)
5. 北海道・青森	セントレジャーゴルフクラブ札幌	7/29(金)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。北海道・青森は、18ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート	9/7(水)-8(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

4. 平成23年度第17回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

男子シニア、女子シニア選手権競技とも第17回大会、ミッドシニア選手権競技は第8回大会を迎えシニア層に定着してきた。平成23年度から男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催する。

全日本シニア上位者2名には、(財)日本ゴルフ協会主催の 日本シニアゴルフ選手権競技 平成23年11月9日(水)～11日(金)熊本空港カントリークラブ(熊本県)のシード権が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	25	11	30	—	66

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)
3.西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

5. 平成23年度第17回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成23年度から男子シニア、女子シニアと男子ミッドシニアは地区決勝・全日本を同日・同会場で開催する。これに伴い、地区決勝は1日競技から2日間競技へと充実した。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 平成24年度 日本女子シニアゴルフ選手権競技(開催日、場所未定)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	17	7	22	46

(1) 18ホールストロークプレー。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)
3.西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)

(1) 出場資格者 :各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー。

3.全日本

	開催コース	開催日
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)

(1) 出場資格者 :各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

6. 平成23年度第8回全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成16年度よりミッドシニア層(65歳以上)の要望に応え、高齢者ゴルファーが参加し易い競技にすべく、男子部門のみであるが予選から全日本まで通して独立競技とする改善を実行し、本年度は第8回大会を迎えるが一層の参加者の増大を期したい。

全日本上位者2名に、(財)日本ゴルフ協会主催 日本ミッドシニアゴルフ選手権競技 平成23年11月7日(月)～8日(火) 玉名カントリークラブ(熊本県)の出場資格が付与される。

◆競技日程

1.予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	19	11	24	53

(1) 18ホールストロークプレー。

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日
1. 東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/28(水)-29(木)
2. 中部日本	正眼寺カントリークラブ	9/14(水)-15(木)
3. 西日本	北神戸ゴルフ場	9/21(水)-22(木)

(1) 出場資格者 : 各地区決勝通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー。

3. 全日本

	開催コース	開催日
全日本	榛名の森カントリークラブ	10/19(水)-20(木)

(1) 出場資格者 : 各地区予選通過者180名(男子シニア、女子シニア及び男子ミッドシニアの合計)、及びシード選手。

(2) 36ホールストロークプレー(2日間競技)。

II. アンダーハンディ競技

1. アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGSスポンサー杯、(2)PGSハンディ杯

2. アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯、(3)グランドマンズリー

◆開催要項

1. 参加資格

競技	参加資格	競技方法
1. 予選 (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS 会員	アンダーハンディ競技 18ホールストロークプレー
2. 決勝 (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯	PGS スポンサー杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	
(3)グランドマンズリー	PGS スポンサー杯、PGS ハンディ杯予選の上位者 各予選のベストグロス者	

(注)PGS 会員:JGA ハンディキャップの取得を目的とした当協会の会員で、誰でも会員になれる。

2. 競技要項

(1)PGS スポンサー杯予選

PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技で、ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイ杯の4冠競技がある。平成23年度はダンロップ杯43回、ブリヂストン杯24回、サンレオ杯13回、キャロウェイ杯10回、合計90回の予選が開催され、11月に東日本・中部日本および西日本の3地区で地区決勝大会を開催する。平成22年度は5,631名の参加者を得た。

(2)PGSハンディ杯予選

PGS 会員を対象とした当協会主催のアンダーハンディ競技。平成23年度は予選競技を27回開催する。平成22年度は1,093名の参加者を得た。

(3)ダンロップ杯決勝

ダンロップ杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(4)ブリヂストン杯決勝

ブリヂストン杯予選の上位者、およびベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

(5)グランドマンスリー決勝

ダンロップ杯、ブリヂストン杯、サンレオ杯、キャロウェイ杯、PGS ハンディ杯の各予選の上位者、および各予選のベストグロス者による決勝大会(東・中部・西日本地区)。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	—	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	—	24
	サンレオ杯	5	4	4	—	13
	キャロウェイ杯	4	3	3	—	10
2.PGSハンディ杯		9	5	8	5	27
合計		44	24	44	5	117

2. 決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	市原ゴルフクラブ柿の木台コース	11/10(木)
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	11/ 2(水)
3.西日本	ダンロップゴルフコース	11/ 2(水)

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	平成24/3/1(木)
2.中部日本	グランシエロゴルフ倶楽部	10/26(水)
3.西日本	西神戸ゴルフ場	11/15(火)

(3)グランドマンスリー

地区	開催コース	開催日
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/15(火)
2.中部日本	アリジカントリークラブ花垣コース	11/17(木)
3.西日本	姫路シーサイドゴルフコース	11/30(水)

3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度まで高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストローク競技で、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

◆競技日程

1.予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	12	8	14	2	36
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	13	8	14	2	37

(1) 18ホールストロークプレー。

(2) PGS・ドリームエイジハンディキャップ方式(年齢+歩数によるハンディキャップ)により順位を決定。平成23年度より歩数ハンディキャップに上限を設ける。

(3) ゴールドティ使用。

2.地区決勝

地区	開催コース	開催日
1.東日本	紫カントリークラブあやめコース	11/ 2(水)
2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	11/ 8(火)
3.西日本	大阪パブリックゴルフ場	10/28(金)

(1) 競技方法 : 予選と同じ。

4.PGS西日本月例杯

PGS 西日本月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るための、PGS 会員を対象としたアンダーハンディ競技である。以前は東日本・中部日本でも開催していたが、現在は西日本地区のみで開催している。今後 JGA ハンディキャップの取得推進、アンダーハンディ競技の充実の観点から、課題を整理の上再度全日本競技を目指したい。

(1) 開催回数

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	87	58	32	45	222

(2) 参加資格 : PGS会員でJGAハンディキャップを取得している者。

(3) 競技方法 : 18ホール・ストロークプレー、アンダーハンディ競技。

5.PGS中部日本月例杯 : みんなでうきうき旅ゴルフ

平成21年度より新規競技会「PGS中部日本月例杯:みんなでうきうき旅ゴルフ」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、当協会は従来からわが国唯一の公認ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及振興に努めており、アマチュアゴルファーの証である同ハンディキャップの取得機会の一層の拡大を目指した競技会である。

1.予選

(1) 開催会場 : 中部日本会員コース 10コース

(2) 参加資格 ①アンダーハンディ競技:PGS会員でJGAハンディキャップの取得者。

②ダブルペリア競技:PGS会員、及びJGAハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー

(3) 競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)

②ダブルペリア競技

2.決勝

(1) 開催日 : 平成24年4月20日(金)

- (2)開催会場 :正眼寺カントリークラブ
- (3)参加資格 :各予選の通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手
- (4)競技方法 :①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)
②ダブルペリア競技

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートした。JGA ハンディキャップの普及振興を目指したクラブ対抗戦で、東日本地区を4ブロック分けしブロック予選を開催、各ブロックより男女各2チーム、並びに決勝大会開催クラブより男女2チーム、前年度優勝クラブ代表男女2チームをシードにより加えた合計12チームで決勝大会を開催する。

1.ブロック予選

(1)参加資格

東日本地区会員クラブの何れかで PGS 会員登録をし、JGA ハンディキャップを取得しているアマチュアゴルファー

(2)競技方法

- ①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA ハンディキャップ)
- ②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0
- ③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による

(3)開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、うぐいすの森ゴルフクラブ&ホテル馬頭、ハーモニーヒルズ、トーシンノースヒルズ、古河、ウィンザーパーク、うぐいすの森ゴルフクラブ水戸、下館	ハーモニーヒルズゴルフクラブ	9月20日
Bブロック	新玉村、前橋、上武、榛名の森、朝霞、妻沼、三井の森	朝霞パブリックゴルフ場	9月22日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、千葉よみうり、八千代、セントレジャー市原、ラヴィスタ、紫あやめ	セントレジャーゴルフクラブ千葉	10月7日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月4日

(4)ブロック予選代表チーム

各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催クラブ、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する。

2. 決勝大会

- (1)開催会場 :セントレジャーゴルフクラブ市原
- (2)開催日 :前夜祭 平成23年10月24日(月)・クラブ対抗戦 10月25日(火)
- (3)参加資格 :①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ
②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ
- (4)チーム編成 :1クラブ男子部門8名・女子部門5名
- (5)競技方法 :①18ホールストロークプレー
②ハンディキャップは最新のJGA ハンディキャップを適用

(男子部門20.0、女子部門30.0まで)

③男子部門 : 上位5名のネットスコアの合計スコアによる

④女子部門 : 上位3名のネットスコアの合計スコアによる

7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ

平成21年度より東日本地区の協会競技としてスタートしたが、平成23年度は開催休止とする。

■協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の様様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGS ニュース」を年2回発行(毎年2月、及び9月)し競技参加者に対して無償配布する。「PGS ニュース」は既に78号を重ね、我が国のパブリックゴルフ史としても貴重な資料である。

【 公益目的事業 2 ゴルフ普及振興事業 】

■ゴルフ普及振興事業

1.セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資するための事業を実施する。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催する。

(1)PGSセミナーの開催予定

日時 : 平成23年6月13日(月)

場所 : 八重洲富士屋ホテル

テーマ:未定

講師 : 未定

(参考)セミナー開催実績

①平成18年度 「ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件」

講師:降旗貞夫(日本ゴルフ場総合研究所 専務理事)

②平成19年度 「物理学から見たゴルフの楽しさ」

講師:八木一正行(宮城大学教授)

③平成20年度 「ゴルフのカラダ革命」

講師:宮田トオル(メデイカルケア院長)

④平成21年度 「ゴルフ場はエコ・パーク」

講師:縣 和一(西日本グリーン研究所所長、九州大学名誉教授)

⑤平成22年度 「アンチエイジング・ゴルフという考え方」

講師:齋藤真嗣(ニューヨーク州医師)

(2)研修会の開催予定 : グリーンキーパー研修会

日時 : 平成23年4月5日(火)

場所 : セントレジャーゴルフクラブ 亀山

テーマ:未定

講師 : 未定

(参考)研修会開催実績

- ①平成18年度 「コース人員・資材・経費について」「グリーン管理とコースを中心とした管理」
「リンクコースの特性と感知方法」
- ②平成19年度 「グリーンオーバーシートについて」「グリーン肥培管理及び今後の方向性」
「コース管理業務委託による一般管理」
- ③平成20年度 「これからのゴルフ場のコース管理」「コース管理概要とインターシード計画」
- ④平成21年度 「コースの現状について」「これからのコースメンテナンスの動向について」
- ⑤平成22年度 「ベントグリーン全面張替えとコース管理」「2009年度コース管理について」

2.交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフの普及振興のために斯業界の諸団体は連携・協力してゴルフ市場活性化に向けた様々な活動を展開する必要がある。ゴルファー人口の底辺拡大はゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、豊かな人間性の涵養、高齢者の健康の保持増進、また児童・青少年の健全な育成に資するもので、この観点から当協会は業界諸団体と連携・協力してゴルフ市場の活性化に向けた事業を展開する。

(1) 日本ゴルフサミット会議

日本ゴルフサミット会議はゴルフ業界16団体で構成され、平成23年度は次のテーマの下に活動するが、当協会も歩調を合わせた活動を展開する。

- ①ゴルフ界は環境問題に積極的に取り組む
- ②ゴルフ場利用税撤廃運動の継続
- ③国家公務員倫理規定における「ゴルフ」の削除
- ④楽しくゴルフをプレーしていただくためのキャンペーン活動の提唱

(2) ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

ゴルフ業界の現況下、新たなゴルフ需要の創造と、ゴルフの健全成長に向けた様々な取組が展開されている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は平成15年10月に発表された『ゴルフ市場活性化行動計画検討会報告書』(経済産業省)に基づき、平成16年9月にゴルフ業界5団体(注1)により発足した。「始めよう、続けよう、もっとゴルフを」のスローガンの下に、(1)「スクランブルゴルフ」の提唱、(2)「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」(日本ゴルフ場事業協会主催)の支援並びに(3)平成23年度より当協会の「PGS ドリーム・エイジゴルフ大会」が、当委員会の後援を受けることが決定された等、業界5団体が連携してゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開している。

(注1) 構成団体 : (財)日本ゴルフ協会、(社)日本ゴルフ場事業協会、(社)日本ゴルフ用品協会、(社)全日本ゴルフ練習場連盟、および当協会

(3) NPO 日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。斯業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、引き続きジュニアゴルファーの育成に連携して活動する。

3.調査・研究事業

(1) 平成23年度調査・研究事業

公益社団法人認定を機に、メイン事業のゴルフ普及振興に加えて、ゴルフ普及振興事業の調査研究事業の充実を図り、その成果を世の中に広く情報発信する。この様な観点から、ゴルフ業界

の需要実態推移、同地域的推移、ゴルファーのニーズ調査等に関する調査レポートを作成する。調査・研究概要は以下の通りである。

- ①テーマ :「ゴルファーの動態統計調査」
- ②調査委託先 :株式会社WAY企画事務所 山岸勝信
- ③調査期間 :平成23年9月中旬～11月中旬
- ④調査対象者 :約2万名

(参考)過去の調査・研究実績

- ①平成18年度 「会員コースのサービス設備や施策の現状」
「女性ゴルファー来場者動向・薄暮利用者動向に関するアンケート調査」、
- ②平成19年度 「パブリック選手権参加者アンケート」
「パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査」
- ③平成20年度 「シニア選手権参加者アンケート」
- ④平成21年度 「シニア選手権参加者アンケート」
「ドリーム・エイジ参加者アンケート」
- ⑤平成22年度 「シニア選手権参加者アンケート」
「ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」
平成22年度調査研究事業として静岡理科大学 富田寿人准教授に委託。(参考までに報告書(結論)を巻末に掲載する)

【 収益事業 ハンディキャップ普及振興事業 】

■ハンディキャップ普及振興事業

1. 公平な統一ゴルフ・ハンディキャップの普及振興事業

【自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任】

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGAハンディキャップ:国際ゴルフ・ルールに基づき(財)日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGAハンディキャップは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会はアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGAハンディキャップの普及を推進している。競技主催団体にとっては、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、アンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件である。

当協会のJGAハンディキャップ取得者は約2万4千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることができ、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

【JGA ハンディキャップの導入状況】

1. 平成18年4月現在

	東	中部	西	合計
会員数	33	11	42	84
JGA採用	31	10	21	62

導入率74%

2. 平成23年4月現在

	東	中部	西	北・青	合計
会員数	32	11	41	5	89
JGA採用	31	11	40	5	87

*導入率98%

【JGA ハンディキャップ取得者の推移】

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度計画
取得者人数(人)	20,262	24,451	23,471	24,663	26,600	28,000

2.JGA コースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する(財)日本ゴルフ協会(JGA)に対して、会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき申請窓口として機能している。平成23年度は、次の5コースでコースレート査定を予定している。

東日本地区	西日本地区	中部日本・北海道・青森地区
1.丘の公園清里ゴルフコース 2.小淵沢カントリークラブ 3.鹿島南蓼科ゴルフコース	1.ダンロップゴルフコース 2.武庫ノ台ゴルフコース	予定なし

【 その他事業 助成金事業 】

■助成金事業

本事業はゴルフの普及を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に、助成金事業を実施する。当該団体の活動を通じて間接的に、児童・青少年の健全な育成に資する事業と考える。

1. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会 :助成金50万円

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会は、ゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金50万円

日本高等学校ゴルフ連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施すると共に活動をバックアップする。

以上



公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
平成22年度 調査・研究事業報告書

「ゴルフのプレー頻度が ゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」

委託者： 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
受託者： 学校法人静岡理工科大学 准教授 富田寿人

はじめに

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会は、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を目的とし、国民の健康保持増進、余暇活動の充実などに寄与するための事業を展開している。最大の事業は競技会の開催で、アマチュアゴルファーに数多くのプレー機会を提供している。スクラッチ競技、アンダーハンディ競技に年間約4万人が参加する中、平成21年度より、シニア層の健康保持増進に寄与すべく、新規競技「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を立ち上げた。これは、「ゴルフで歩いて健康に」をコンセプトに65歳以上の男女を対象に開催している大会で、年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディを加算したPGS独自のハンディキャップを採用するなど、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

中高年者は生活習慣病やメタボリック・シンドロームへの罹患率が高まる懸念があることから、健康に対する意識が高いと言われている。そんな中高年者に支持されるゴルフが、運動量の豊富なスポーツであることは、平成18年に厚生労働省が発表した「健康づくりのための運動指針 2006～生活習慣病予防のために」で示されている。この中で、身体活動量の目標として“週に※23 エクササイズの活発な身体活動”を推奨しており、これを歩数に換算すると1日1万歩が目標値であることが具体的に示された。また、同指針でゴルフは速歩、自転車と並ぶ活発な運動(※4メッツ)に分類されており、ゴルフ場で1ラウンドを4時間でプレーした場合、待ち時間やカート使用時間を除いた実質運動時間を2時間と想定すると、4メッツ×2時間＝8エクササイズの身体活動量があったと算定される。これは、相当に大きな値で、ゴルフの運動量の豊富さを再確認するとともに、定期的にゴルフをプレーすることが、生活習慣病の改善に大きな効果をもたらすことが期待できる数値である。

こうした観点から、ゴルフと健康には密接な関係があるとの考えに基づき「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を新設したが、これまでゴルフと健康に関する調査・研究が非常に少なかったことから、今回、ゴルフが健康に与える具体的な効果を立証すべく静岡理科大学・富田准教授に調査を依頼することとした。

※メッツは運動強度の単位。エクササイズは、運動強度(メッツ)×時間で算出する。

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等、豊かな国民生活の実現への寄与を目的に、1962年(昭和37年)に「関東パブリックゴルフ協会」として創立。1964年(昭和39年)には全日本組織化し、「日本パブリックゴルフ協会」に改称した。1994年(平成6)に社団法人格を取得し(主務官庁:通商産業省)「(社)日本パブリックゴルフ場事業協会」に団体名を変更。2010年(平成22年)3月には内閣府よりスポーツ団体第1号として公益社団法人の認定を受け、同年4月に元の「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称した。

公益目的事業の柱はアマチュアゴルファーを対象とした競技会の開催。日本最大級のアマチュアゴルファーの祭典「パブリック選手権」をはじめ、「パブリックミッドアマ選手権」、「シニアパブリック選手権」には毎年約2万人が参加。アンダーハンディ競技とあわせると、約4万人がPGS主催競技に参加している。

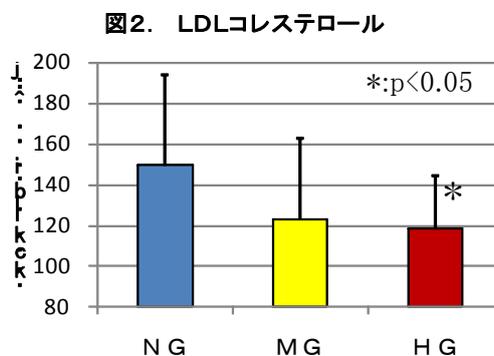
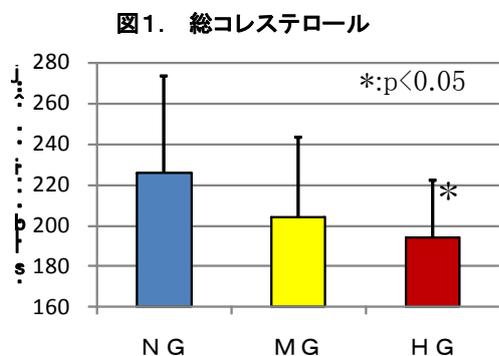
ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響（結論要旨）

静岡理科大学 富田寿人

中高年男性に人気の高いゴルフですが、ゴルフを一生懸命にプレーすると健康にどんな効果があるのかを証明した研究は非常に少ないのが現状です。そこで、本調査の目的は、中高年者の体脂肪や血液検査項目そして日常生活の身体活動量や健康意識にゴルフのプレー頻度がどんな効果を及ぼしているのかを調査することでした。

対象者は愛知県内のパブリックゴルフ場（名古屋広幡ゴルフコース、森林公園ゴルフ場、名古屋港ゴルフ倶楽部）の会員となっている中高年男性 64 名と静岡県袋井市内に在住する中高年男性 12 名、合計 76 名でした。彼らの平均年齢は 68.4 歳、平均身長 166.6cm、平均体重 64.2kg、平均腹囲 82.3cm でした。この 76 名をゴルフのプレー頻度で 3 つのグループに分けました。①ゴルフのプレー習慣の無いグループ（15名：NGグループ）、②ゴルフ・ラウンドを月に 3 回までしかプレーしないグループ（26 名：MGグループ）そして③ゴルフ・ラウンドを月に 4 回以上行うグループ（35 名：HGグループ）です。

その結果、身長、体重、体脂肪量、筋肉量などの体格にはグループの間に差がないことがわかりました。しかし、グラフのように総コレステロールは、NGグループの平均値 226.1mg/dl に対してMGグループ 204.2mg/dl、HGグループ 194.4mg/dl とゴルフをよくしている人の方が低くなりました。また、LDLコレステロール（悪玉コレステロール）も、NGグループの平均値が 149.7mg/dl に対してHGグループは 118.5mg/dl と低い値になりました。さらに、中性脂肪（トリグリセリド）でも同じような結果が得られました。



つまりこの結果は、高頻度でゴルフをプレーしている人達は血液中の脂質が良い値を示しており、動脈硬化を引き起こしにくく、ひ

いては脳血管疾患や心疾患になりにくいことを示しています。

また、全員の1週間の身体活動量を測定し、1日あたりの活動量にして比較してみると、1日の歩数は平均でNGグループ 7703 歩に対して、MGグループ 9582 歩、HGグループ 9099 歩と高い数値でした。年齢的なことを考えても、ゴルフをする人達が日頃からよく歩いていることがわかりました。また、歩数が多いためか、1日の運動量や活動時間も同じような結果を示しています。

	運動量	総消費量	歩行数	活動時間	歩行運動	速歩運動
	kcal	kcal	歩/日	分	分	分
NG	201	1828	7703	81	61	19
MG	264	1866	9582	98	68	29
HG	237	1848	9099	95	68	26

なかでも注目したいのは、1日あたりの速歩運動の時間です。MG, HGグループの人達は1日の中で速歩に相当するような運動を30分弱していることがわかったのです。つまり、ゴルフをよくする人達は毎日たくさん歩くだけでなく、速足で歩いているか、それに相当する強めの運動をしているということです。その結果、1週間の運動量は相当な量に達するため、内臓脂肪を確実に減少させ、メタボリック・シンドロームの予防・改善ができると思われます。さらに、このような運動の強さは心臓や肺に適度な刺激を与えるため、健康づくりにも最適と言えるでしょう。

本調査から、ゴルフを習慣的に行う中高年の方々は、健康意識が高く、日常の生活の中でも1日一万歩を概ね達成しており、週あたりの運動量も高いレベルにあることが明らかとなりました。これは、ゴルフをプレーしていることが引き金となって、日常の生活改善や健康意識の改革が行われているためと思われます。

また、ゴルフをよくプレーする人達の総コレステロールやLDLコレステロールの値は、ゴルフ習慣を持たない人達に比べ明らかに低い値を示したことから、ゴルフ習慣を持つことは、動脈硬化を予防し、脳血管疾患や心疾患の発症率を低下させることに有効であると思われます。

さらにこの効果を高めるためには、健康的な生活をしていることを基本として、ラウンドする時はカートに乗らず歩いてプレーすることが大切です。これによって、メタボリック・シンドロームや生活習慣病の予防・改善、そして体力低下の予防・改善ができると考えます。

以上